



J R 総連第4回「脱原発」学習会

福島を取り戻す！

放射能汚染の影響でどんどん小さくなるフクシマ

J R 総連は2月14日、第4回脱原発学習会を開催した。今回は福島中央市民医療生協労組の二瓶修爾執行委員長（ヘルスケア労協副会長）から「東日本大震災と原発事故」と題し、東日本大震災後の医療現場から見た東京電力福島第一原発事故の影響と現状などについて、講演をいただいた。



「世界もひとつく日本の基準値 2000のバケルル」 ver.3.0

こんなにゆるい日本の暫定基準値



●正しく知って子どもたちを守りましょう。

目玉のα基準値

アメリカの法令基準	0.111 Bq/L
ドイツガス水道協会	0.5 Bq/L
ウクライナ(セシウム137)	2 Bq/L
WHO基準(ヨウ素131)	10 Bq/L
WHO基準(セシウム137)	10 Bq/L
ベラルーシ	10 Bq/L
国際法 原発の排水基準値	
ヨウ素131	40 Bq/L
セシウム137	90 Bq/L
日本の暫定基準値(乳児)	100 Bq/L
日本の暫定基準値	
セシウム(Cs-137)	200 Bq/L
ヨウ素(I-131)	300 Bq/L

ψψ 有機物の基準値

ベラルーシ(子供)	37 Bq/kg
ウクライナ(野菜)セシウム137	40 Bq/kg
ベラルーシ(野菜)	100 Bq/kg
コーデックス(Sr90,Ru106,1131,U235の合計)	100 Bq/kg
アメリカの法令基準	170 Bq/kg
これまでの日本の輸入品規制値	370 Bq/kg
日本の暫定基準値(野菜)セシウム137	500 Bq/kg
日本の暫定基準値(野菜)ヨウ素131	2000 Bq/kg

※コーデックス:CODEX、FAOとWHO共同の食料食品規格委員会

講演会にはJ R 総連組合員ら 100 名超が参加。二瓶委員長からは震災での被害状況や医療現場の取り組みが紹介された。

まず、震災で独居・高齢者、要介護認定者などが震災弱者として取り残されたことや、支援物資が届かず医療機関や介護事業所が孤立するなど、震災救援のあり方が指摘された。また、人類と共存できない核・放射性物質の汚染が続くフクシマで、国が「安全キャンペーン」をおこない、住・食がすべて個人の判断に任されていること。そして放射能汚染の度合いの強いフクシマに住民が暮らし続けるのは、ほとんどが経済的理由だけであり、医療現場に携わる労働者さえも次々とフクシマを離れていくのが現状であるなど、苦しい胸のうちも語られた。それは「どんどん小さくなるフクシマ」という言葉で例えられた。

そうした中で、二瓶委員長はJ R 総連議員団の羽田房男福島市議らと連携を取り、福島を取り戻すために、ヒマワリの作付け、行政や国・東電への要請、除染作業、そして子どもたちの週末避難など、できることを何でもやってきたことなどが紹介された。

「脱原発」の実現に何ができるか。それはフクシマだけの課題ではない。J R 総連は原発のない社会の実現をめざし、ともに闘いを進める。



(写真) 講演をいただいた二瓶修爾委員長／(上) 講演資料：「チームココ作成」